

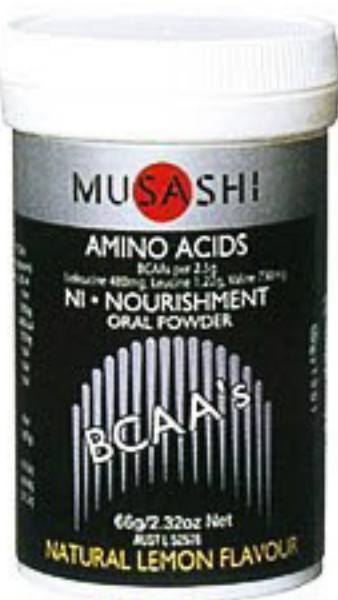
# 世界が認めたアミノ酸 MUSASHIラインアップ



## KUAN クアン パワーアップ 健康維持・増進

◆こんな方におすすめ  
**スポーツをされる方**  
 ・とにかくパワーアップしたい方  
 ・効率よく体を大きくしたい方  
 (脂肪を増やさない)  
**一般の方**  
 ・老化が気になる方  
 ・疲れやすい方

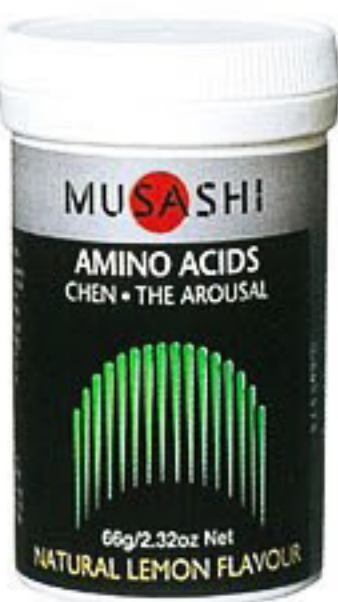
大(300g、約3ヵ月分) ¥11,445  
 中(150g、約1.5ヵ月分) ¥6,195  
 小(66g、約3週間分) ¥3,465



## NI ニー リカバリー 疲労回復

◆こんな方におすすめ  
**スポーツをされる方**  
 ・疲れが取れにくい方  
 ・ハードトレーニング期、合宿時、連戦時  
**一般の方**  
 ・疲れが取れにくい方  
 ・慢性的な痛みを抱えている方

大(300g、約3ヵ月分) ¥12,495  
 中(150g、約1.5ヵ月分) ¥7,035  
 小(66g、約3週間分) ¥4,095



## CHEN チェン エネルギー源

◆こんな方におすすめ  
**スポーツをされる方**  
 ・試合後半にバテやすい方  
 ・ここ一番の勝負サブプリがほしい方  
**一般の方**  
 ・体がバテやすい方  
 ・風邪をひきやすい方

大(300g、約4ヵ月分) ¥10,500  
 中(150g、約2ヵ月分) ¥5,800  
 小(66g、約3週間分) ¥2,730



## IMMUNITY イミュニティ 自然対応力の強化

◆こんな方におすすめ  
**スポーツをされる方**  
 ・ハードトレーニングによるコンディション低下防止  
**一般の方**  
 ・外敵への過剰反応に悩む方  
 ・体調を崩しやすい方  
 ・過剰なストレスを感じる方

大(300g、約4ヵ月分) ¥10,500  
 中(150g、約2ヵ月分) ¥5,800  
 小(66g、約1ヵ月分) ¥2,730

※より詳しい情報はホームページで  
**MUSASHI アミノ酸**



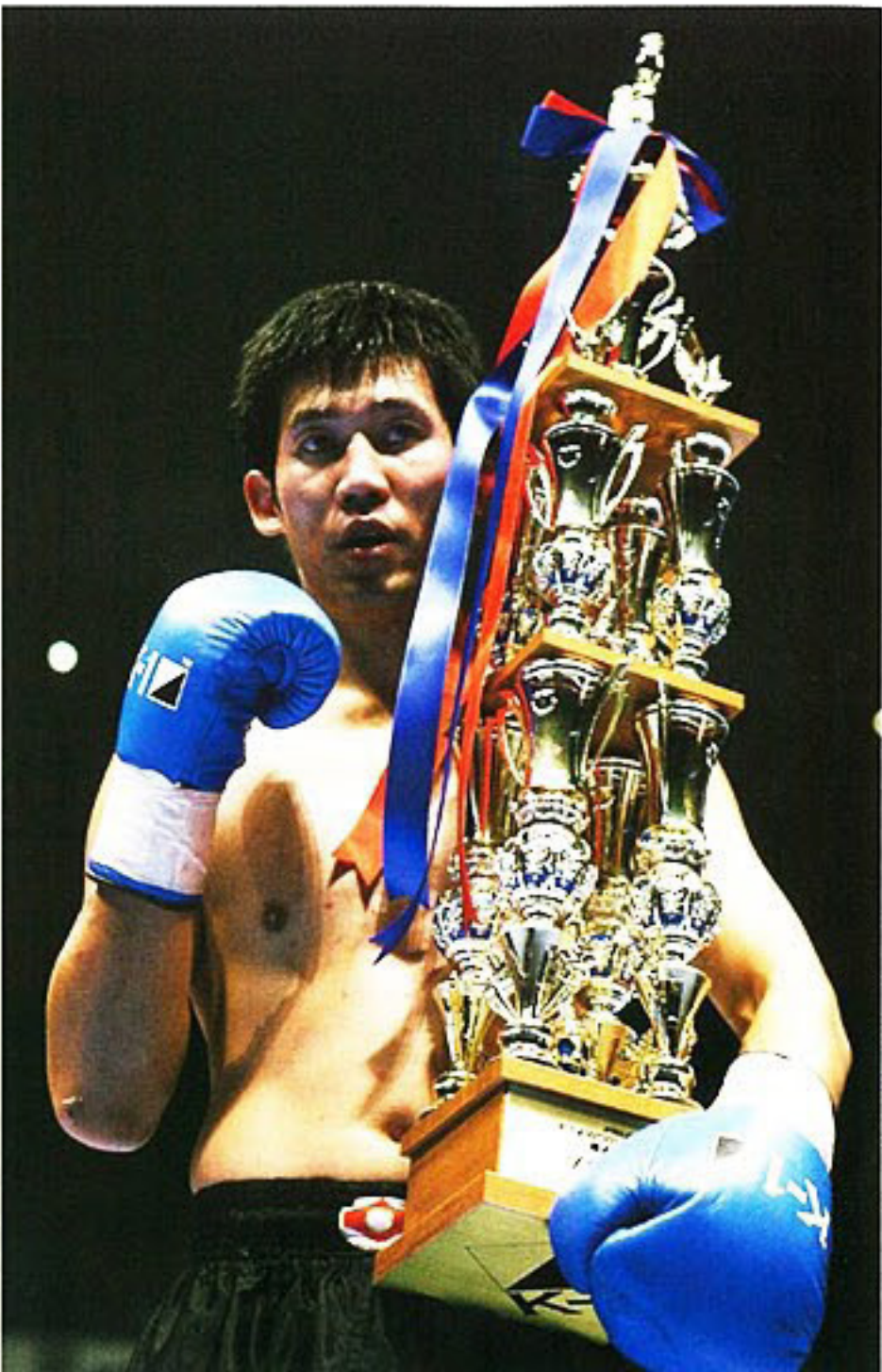
「CHENのおかげで得意の蹴り技がさらにキレを増した」と洪。2Rにはダウンを奪うなど、文句なしの判定勝ちを収めた

●12月6日=横浜アリーナ  
 ▼K-1ルール/3分3R  
 ○**洪太星**(極真会館/185cm/84.2kg)  
 判定勝ち  
 ●**タケル**(正道会館/192cm/92.6kg)  
 ※ジャッジ3者とも30-27

【試合経過】1Rから攻勢に出た洪太星は序盤からペースを握ると、2R終了間際に相手をコーナーに詰めてパンチの連打を浴びせてスタンディングダウンを奪う。最終3Rはイーブンペースだったが、ジャッジは3者ともに30-27を付けるフルマークで判定勝ち。これで洪は昨年6月の福岡大会、10月の武林風に続いて連勝中。2009年に期待を抱かせる勝利だった。



**洪太星**(こう・たいせい)  
 1980年10月18日、神奈川県出身。  
 02年第34回全日本大会ベスト8。  
 03年第8回世界大会に日本代表として出場。  
 05年よりキックボクシングに転向し、  
 現在はK-1などで活躍。  
 横浜港南支部所属、185cm、85kg。



# 洪太星、2009年に期待膨らむK-1連勝 「CHENが自分に 見えない力を与えてくれた。 自分でも驚く即効性。 これは本当に効きます!」

連勝街道を走る洪太星が、12月6日に行なわれたK-1 GPPのオーブニングファイトに出場し、正道会館のタケルからダウンを奪う判定勝ちで2009年に弾みをつけた。昨年6月、10月と連勝を重ねている洪は、好調の影に「MUSASHIのサプリメントが大きな力になった」と語る。

「1日の練習は午前のジムワークと午後のフィジカルトレーニングの主に2回あるのですが、練習30分前に必ずCHEN(チェン)を飲みました。自分は蹴りが得意なんですけど、今まで以上に蹴りは走るし、身体のキレも良くなって、効果はすぐに実感できましたね。それはフィジカル面も同じで、ウェイトトレーニングのコアも順調に伸びていきましたし、ランニングのタイムも上がって、これは自分でも信じられないくらい驚いています」

CHEN(チェン)は前回取材した10月に赤石誠選手からスズメられたのがきっかけだったというが、その効果については実は半信半疑だったという。普通サプリメントというのは、1ヵ月〜3ヵ月くらい継続して摂取し続けなければなかなかその効

果は表面に現れない。しかし、このCHEN(チェン)に限っては「飲んでその日の練習から動きが良くなって、赤石さんが言っていたCHEN(チェン)の効果を実感した」と洪と驚きの表情で語ってくれた。

さて、本番の試合前、洪はいつもの練習のときのように30分前にCHEN(チェン)を摂取。いざリングに上がると、ファーストコンタクトの中段蹴り蹴りがいつも以上にキレているのを実感し、「今日は勝てるぞ」と確信したという。2Rも終盤まで動きが衰えることなく、相手を追い詰めて試合を決定つけるダウンを奪うことに成功。見事、勝利を収めることができたのだ。

「CHEN(チェン)はさすがに勝負サブプリ、と言われるだけのことはありますね。嘘じゃなく、これは本当に効きます。今後はもっと強い相手との試合になると思うので、よりハードな練習をしなければ勝てない。そのために疲労や故障からの回復に効果があるというNI(ニー)を試してみたい」と洪。2009年を「勝負の年」と位置づける洪は、今年もMUSASHIとともに活躍の道を歩んでいくことだろう。



# 真冬の三峰合宿で日本代表が NI(ニー)スティックを体感

抜群の効果と携帯性  
お試用としても  
気軽に買いやすい



軽量級代表・田中健太郎 「MUSASHIのことは赤石君から聞いていたんですが、本当だろうかと思っていました。このスティックタイプはポットタイプより飲みやすいので比較的早く治ったような気がします」  
 中量級代表・森善十朗 「2日前の合宿で足で踏んで、午後のマラソンで心が疲れたんですが、ある程度は飲んで早く回復する感じができました。もっと早くも飲んだらよかったと思います」  
 軽量級代表・村田達也 「MUSASHIの中でKUANを飲んでいていますが、NIは初めてでしたが、思った以上に効果が感じました。KUANやCHENなどの他の製品も試してみたいと思います」  
 重量級代表・赤石誠 「いつもMUSASHIにはお世話になっていますが、このスティックタイプは手軽で携帯性としてすごく便利。KUANやCHENなどの他の製品も試してみたいと思います」

1月4日~6日に行なわれた恒例の冬季合宿に、8月の第4回世界ウェイト制大会日本代表4選手が参加。そこで、以前からMUSASHIを愛用していた赤石誠をはじめ、その他の選手にも新発売の携帯用スティックタイプのNI(ニー)を摂取してもらい、その効果や利便性を語ってもらった。



冬合宿といえば、神社境内の早朝稽古をはじめ、三峰山の山頂から下り、再び山頂に登る22kmマラソンや、下山途中に行なわれる滝浴びなど屋外での稽古が多い。そこで、参加した日本代表選手4名に、携帯用として簡単に持ち運びできるMUSASHIの新製品「NI(ニー)スティックタイプ」を試してもらった。

この商品は疲労や故障からの回復に効果のあるNI(ニー)を、一回分ごとにスティック袋に分けたもので、これは従来のポットタイプと比べて携帯性に優れており、屋外での稽古が多い合宿にもってこいのサプリメントといえる。

合宿で最も苦しいのが2日目の午後に行なわれる22kmマラソン。まだ正月ボケが残る体には、標高1200mの三峰山のアップダウンは想像以上にキツイ。その上、2日目の午前中には代表選手の別メニューで選手稽古があるから尚更である。

まず、MUSASHIのサブプリでは一番の先輩である赤石は「代表選手の稽古が終わってすぐにNI(ニー)を飲んで疲労回復を図り、その後、軽く食事を摂って1時間くらい休憩してか

らマラソンを走りました。毎年走っているんですが、やはり苦しいですね。走り終わった後、またすぐにNI(ニー)を飲みました。屋外の練習のときは持ち運びが簡単で、手軽にいいですね。疲労回復はもちろん、合宿で一番苦しいメニューが終わったので、その解放感も手伝ってスッキリした気分になりました」と笑顔で語った。

その他の3人も、中にはMUSASHI初体験という選手もいて、「疲れが早く取れました。翌日の寝起きが良かったような気がします」。「ポット入りだと値段的に躊躇していましたが、これだとお試用として気軽に購入できる」「携帯性に優れていて屋外でも練習直後に飲める」等々、実はその効果を口にする選手が多かった。

3日目、滝浴び稽古を行なう清浄の滝は三峰山頂から下山する途中にある。ミネラルウォーターを片手にNI(ニー)スティックをポケットに忍ばせて山道を下り、滝浴び稽古が終わった直後にNI(ニー)を摂取。3日間の疲れを吹き飛ばした選手たちは、再び山道を降りて、迎えのバスの待つ山のふもとに向かったのであった。

大人気のリカバリー専用アミノ酸NI(ニー)の使いきりタイプです  
スティック状なので携帯に便利。スポーツ後の疲れを速効回復。アスリートは試合・遠征用に、長時間の運動中は途中で一本。旅行・出張・仕事中にも、営業マンにもお勧め。

MUSASHIの新製品「NI(ニー)スティック」を手にする日本代表の4選手。右から赤石誠、村田達也、森善十朗、田中健太郎